

県民大会（4月19日開催）のリード競技に関して、下記のご質問がありましたので回答いたします。

● **ご質問** ※一部書き方を変えています。

リード競技の順位の付け方の矛盾点と思われる点があった。来年度に向け課題提議する。

==== 以下 HP 抜粋 =====

■ 順位の付け方は以下のとおり。

【リード競技（オンサイト）】

1. 到達点（ホールドのポイント）。

2. 同高度の場合は競技時間の比較により決定。（短い方が上位）

※全順位に適用します。

=====

事例1）完登者が複数名の場合・・・ 競技時間が短い方が上位 → 納得

事例2）途中の同一ホールド（例えば13個目）保持でフォールした場合、今の規定では13個目のホールド到達までの時間が早くても、そこでチョークアップや色々なムーブを試し（粘って）最終的にフォールした場合、その粘った時間を含めて競技時間（＝フォールまでの時間）で順位付けとなっている。

つまり、同じホールドでフォールするなら、すぐにフォールした選手の順位が上となる。粘った方の順位が下がるのは、順位付けとして矛盾していないか？時間で順位付けをするなら、同一ホールドまでの到達時間の早い選手の順位が上とするべきではないか。

● **回答**

本大会の要項に併せて「スポーツクライミング競技規則」のご確認をお願いします。

当規則の第7章のリード競技についてですが、以下のとおり規定されています。

（アテンプトの開始）

第48条 選手のアテンプトは、選手の身体の全てが地面から離れた時に開始したものとする。

（アテンプトの終了）

第50条 選手のアテンプトは、次の各号のいずれかを満たす場合に終了となる。

（1）選手が最終のプロテクション・ポイントにクリップしたとき

（2）選手が落下したとき

（クライミング・タイム）

第55条 クライミング・タイムは、選手のアテンプト開始から終了までの時間をいい、1秒未満を切り捨てて記録しなければならない。

つまり、競技時間（クライミング・タイム）は落下（フォール）した時までを記録することになっています。競技規則の変更があれば、併せて対応になりますが、現状の規定である限りはこのルールで運用します。規則がその様になっていることを踏まえてアテンプトに臨んでいただければと思います。

実際、競技大会によく参加している選手は規則等をよく理解し、どうすればより上位に行けるのかを考えながら競技に臨まれています。例えば、今回の事例であれば「粘るよりリスクを冒しても先に一手を出す方が良い」との判断、等です。参考にさせていただきますと幸いです。